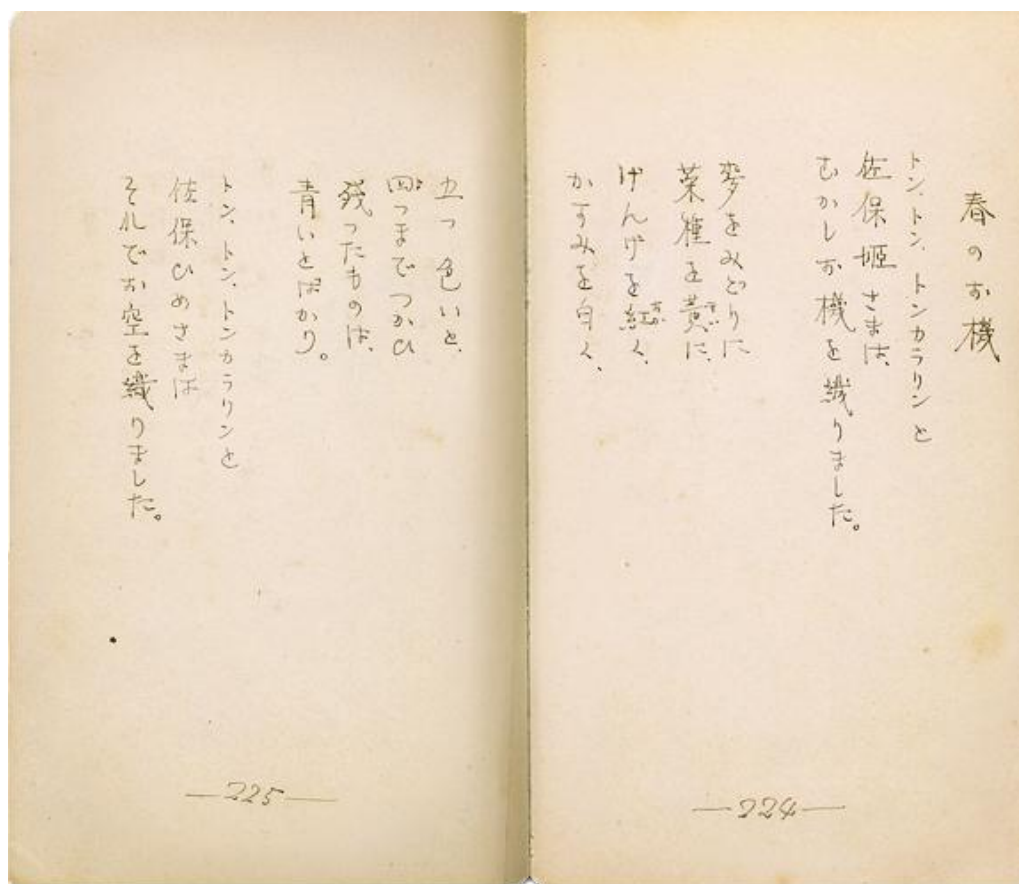


みすゞが詩で歌った物語を紹介します。



金子みすゞ自筆「春のお機」 金子みすゞ著作保存会提供

令和2年 企画展 みすゞがふれた物語展

令和2年9月5日(土)～10月31日(土)

9:00～17:00

(最終入館は16:30まで)

金子みすゞ記念館

〒759-4106 山口県長門市仙崎1308番地

TEL: 0837-26-5155

FAX: 0837-26-5166

金子みすゞは読書家であったと生前の彼女を知る人たちの多くが証言しています。

そんな金子みすゞの詩には、さまざまな物語を題材にしたものが多いです。「かぐやひめ」や「舌切り雀」など日本の昔ばなしから「ミダス王」や「ペガサス」などのギリシャ神話まで。それらの詩を読み解けば、彼女の豊かな想像力と鋭い観察力、そして読書によって得た深い知識を知ることができます。

企画展示室内では、みすゞの読んだ話を詩と共にパネルで紹介しています。また、関連の書籍の展示も行っています。



金子みすゞ（1903年～1930年）

山口県長門市仙崎出身である童謡詩人。代表作に

「私と小鳥と鈴と」や「こだまでしょうか」などがある。「童謡詩人の巨星」と称されたが、26歳で死去。

素朴な言葉遣いで身近な物事を歌う作風が特徴。1996年からは小学校の教科書に詩が掲載されている。

金子みすゞ肖像 金子みすゞ著作保存会提供

《ギャラリートークのご案内》

学芸員が企画展の見どころを紹介します。

●9月20日（日）11：00～30分程度

●10月11日（日）11：00～30分程度

場所：金子みすゞ記念館企画展示室